

平成26年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等

平成26年9月

総務省総合通信基盤局消費者行政課

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標 - ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) -

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が急務。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（平成23年10月）を受け、リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを開発。
- 協力を得られた学校等において、平成26年6月から7月にかけてテストを行い、その結果を「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS:アイラス）」として集計・分析・比較した。
- ILASは、地域での周知啓発活動や、事業者による安心・安全サービスの提供・改善に役立てるとともに、OECD等における国際的な指標づくりに我が国からインプットしていく。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（平成21年4月1日施行）

【基本理念】

- ① 青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、② 青少年の有害情報の閲覧機会の最少化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組）、③ 民間による自主的・主体的取組、国等によるこれの尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（平成23年10月）

2. 各関係者に求められる役割等 （中略）
行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会（座長：赤堀侃司白鷗大学教授）（平成23年9月～24年3月）

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。
（顧問）堀部政男（一橋大学名誉教授）、渡部洋（東京大学名誉教授）（座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（スマートフォン時代における安心・安全な利用環境の在り方に関するWG）提言案（平成25年7月）

第Ⅲ部第3章スマートフォン時代に適応したリテラシー向上の取組（1）（中略）
（1）インターネット・リテラシー指標（ILAS）の更なる展開、（2）地域における自立的な周知啓発活動の展開、（3）リテラシー向上に関する国際的な調和の推進

2. ILASの実施概要等

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

OECDのインターネット上の青少年保護に関するレポートにおけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)に関し、前記有識者検討会において以下の項目に整理。

【青少年に必要なリスク対応能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力
 - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
 - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2. インターネット上で適切にコミュニケーションできる能力
 - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションできる。
 - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
 - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力
 - a. プライバシー保護を図り利用できる。
 - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

携帯電話やスマートフォンがおおむね青少年にいきわたる高校1年生までに身に付けて欲しいリスク回避能力を体系的に定義。

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

平成26年6月から7月にかけて、全国22の公立・私立の高等学校等において、約3,700名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

地域数	所在地区分		校種		人数		平均点
16都道府県	特別区等	4校	国立	3校	男女	2,159人	全体 34.4点(49点満点) (正答率約70%)
	中核市	9校	公立	13校			
	その他	9校	私立	6校	1,523人		
	計 22校			計 3,672人			

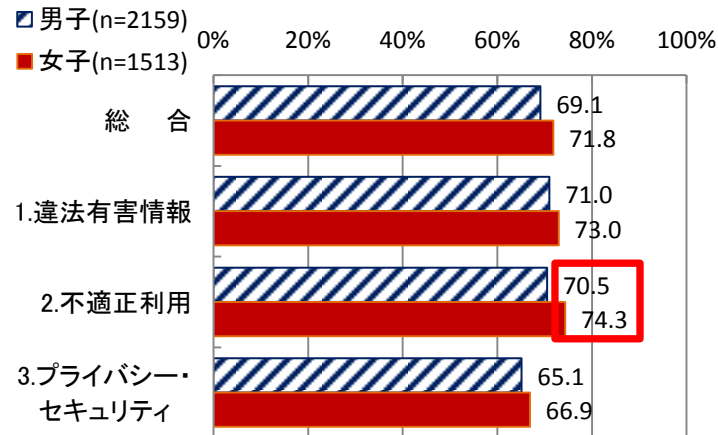
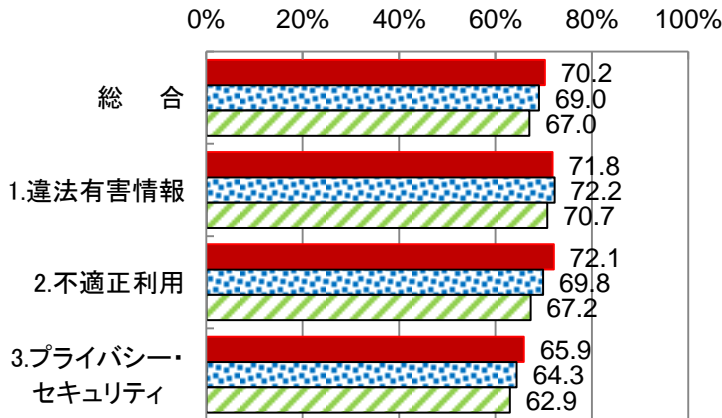
※平成26年度は、一部のテスト問題の用語等について追加、修正等を行った。(例えば、携帯電話→携帯電話・スマートフォン)

3. ILASの結果

テスト結果の全般的評価

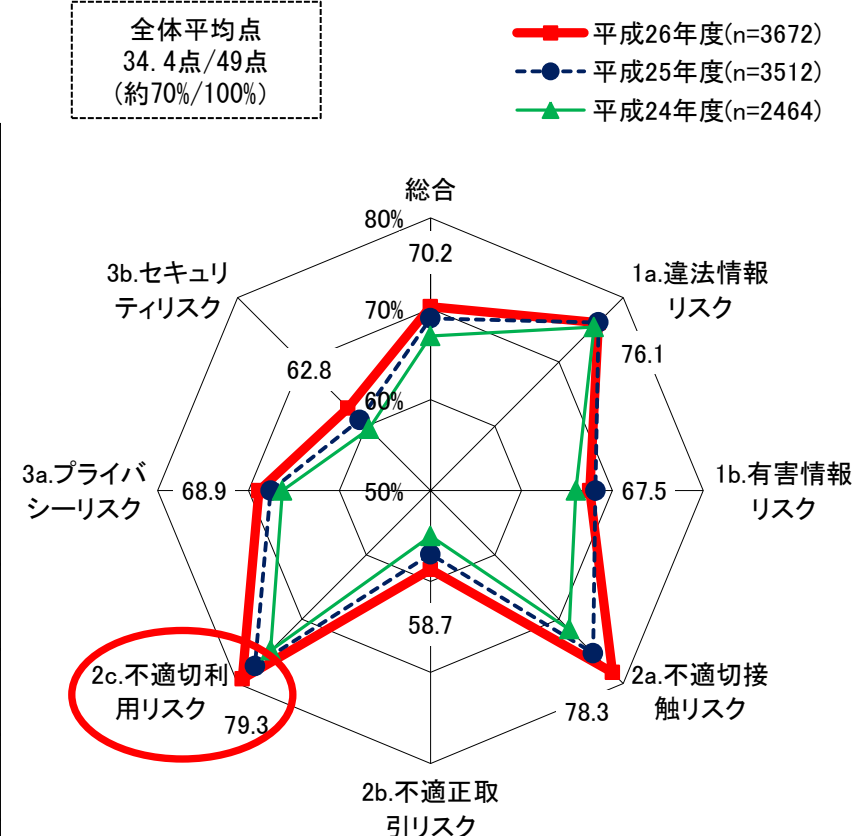
○どの分類においても平成25年度より平均点が同等かそれ以上となった。年々、リスク対応能力の向上がみられる。
 ○男子より女子が平均点が高く、大分類では**2.不適正利用**（インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力）が最も差が大きい。
 ○平成25年度と同様に**不適切利用リスク(2c.)**に関する能力の**正答率が相対的に高く**、**不適切接触リスク(2a.)**に関する能力が3ポイント向上した。一方で、**不適正取引リスク(2b.)**及び**セキュリティリスク(3b.)**が相対的に正答率が低い。
 ➡ 全体のリテラシーは向上しつつあるも、依然として弱点もあり、更なる啓発が必要

【大分類】



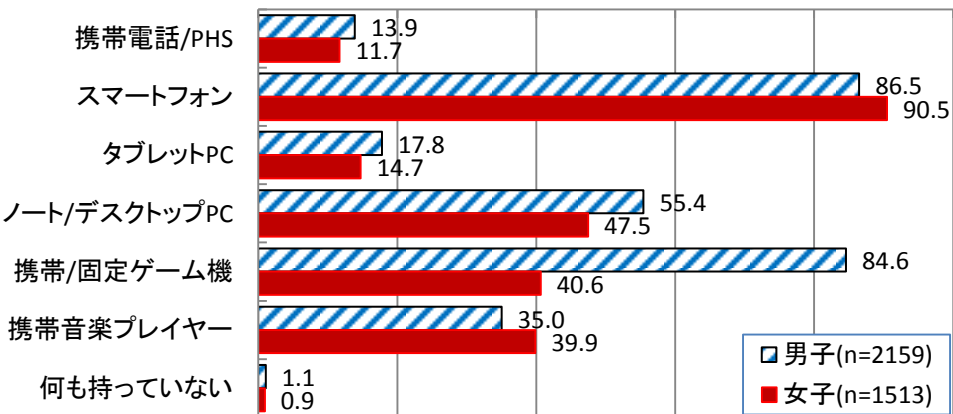
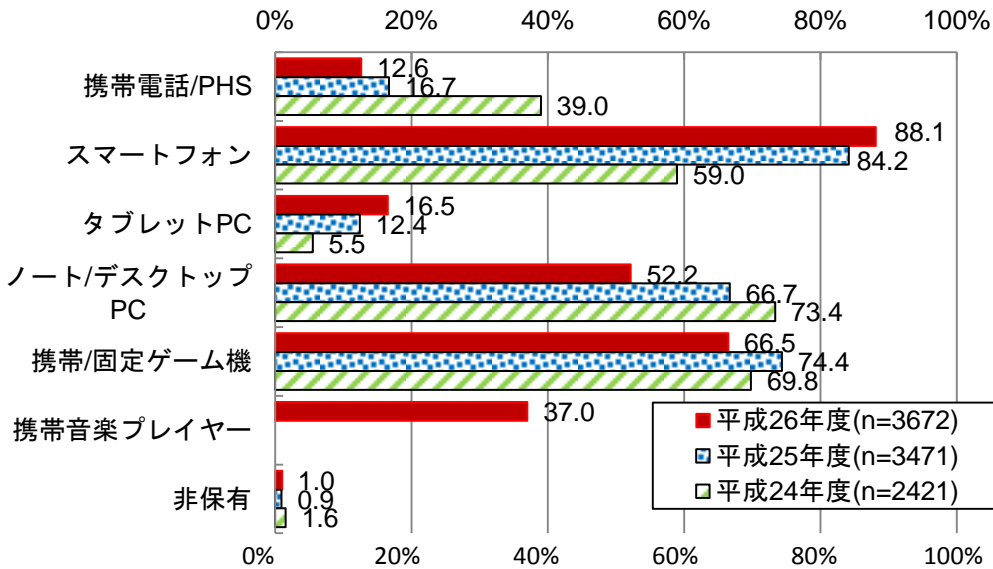
	平成26年度	平成25年度	平成24年度
回答者人数	3762人	3512人	2464人
総合	70.2%	68.9%	67.0%
1a.違法情報リスク	76.1%	76.1%	75.4%
1b.有害情報リスク	67.5%	68.1%	66.0%
2a.不適切接触リスク	78.3%	75.3%	71.6%
2b.不適正取引リスク	58.7%	57.0%	55.0%
2c.不適切利用リスク	79.3%	77.3%	74.9%
3a.プライバシーリスク	68.9%	67.6%	66.3%
3b.セキュリティリスク	62.8%	61.0%	59.6%

【中分類】



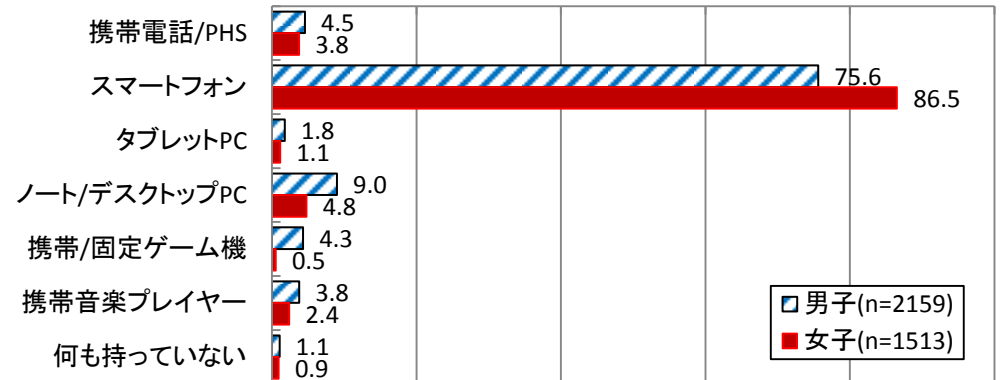
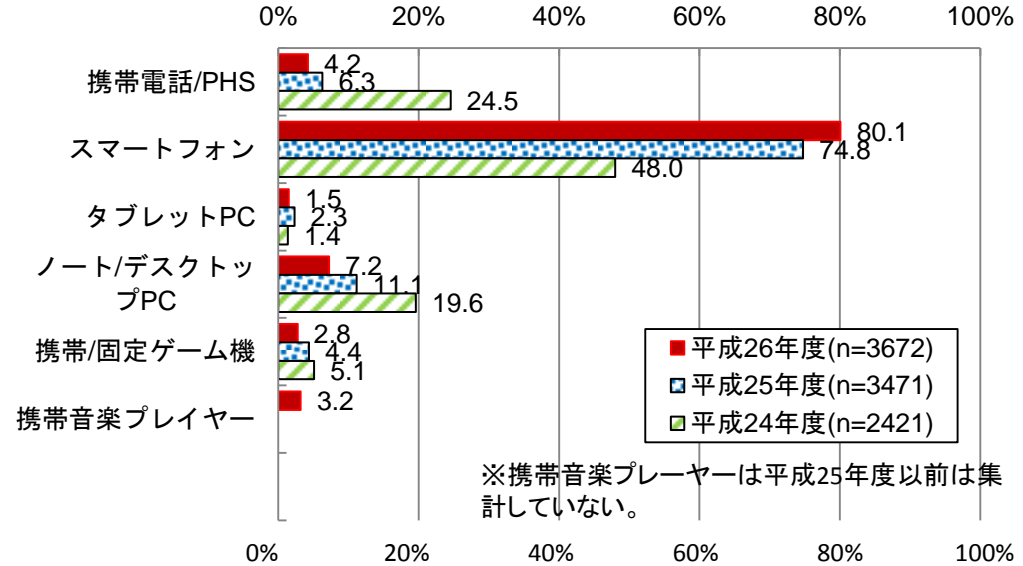
4. 青少年の利用機器の現状

【保有するインターネット接続機器(複数回答)】



- ・ 青少年の**88%**がスマートフォンを保有。
- ・ ノート/デスクトップPCの保有率が低下している中、タブレットPCの保有率は増加している。
- ・ 女子に比べ男子のゲーム機保有率が**大幅に高い**(男子84.6%、女子40.6%)。

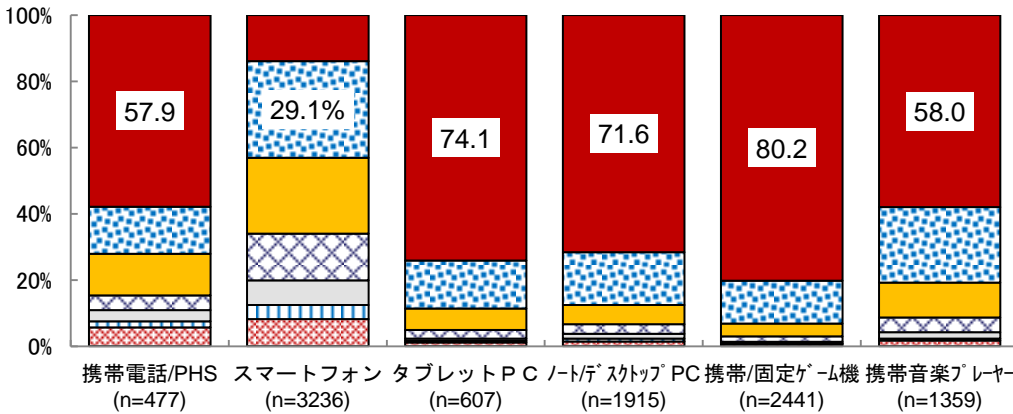
【インターネットに接続する際、最もよく利用する機器(択一回答)】



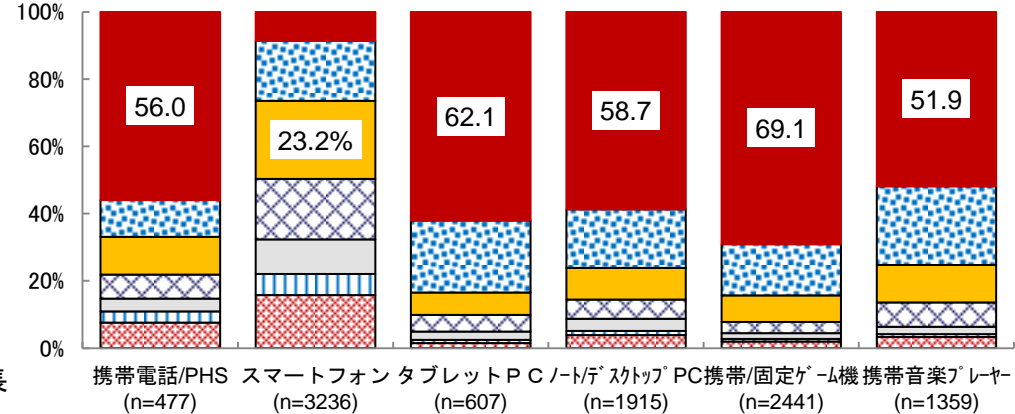
- ・ インターネットに接続する際、スマートフォンを最もよく利用する青少年は**80.1%**。
- ・ 男女ともスマートフォンを最もよく利用しているが、男子に比べ**女子の方がよりスマートフォンの利用率が高い**。逆に**ノート/デスクトップPCは男子の方が利用率がやや高い**。

5. 青少年のインターネット利用状況

【機器別1日の平均利用時間(平日)】



【機器別1日の平均利用時間(休日)】



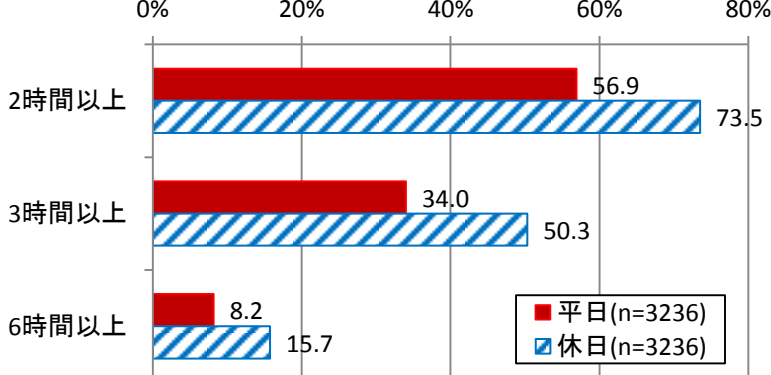
短
↑
長
↓

	6時間以上	5~6時間未満	4~5時間未満	3~4時間未満	2~3時間未満	1~2時間未満	1時間未満
携帯電話/PHS (n=477)	5.7	1.9	3.4	4.4	12.6	14.3	57.9
スマートフォン (n=3236)	8.2	4.3	7.4	14.2	22.9	29.1	13.9
タブレットPC (n=607)	1.2	0.5	0.7	2.6	6.4	14.5	74.1
ノート/デスクトップPC (n=1915)	1.5	0.8	1.5	2.9	5.7	15.9	71.6
携帯/固定ゲーム機 (n=2441)	0.6	0.2	0.5	1.6	3.8	13.0	80.2
携帯音楽プレイヤー (n=1359)	1.7	0.6	1.9	4.5	10.5	22.8	58.0

	6時間以上	5~6時間未満	4~5時間未満	3~4時間未満	2~3時間未満	1~2時間未満	1時間未満
携帯電話/PHS (n=477)	7.5	3.4	3.8	7.1	11.3	10.9	56.0
スマートフォン (n=3236)	15.7	6.3	10.3	18.0	23.2	17.8	8.7
タブレットPC (n=607)	1.5	1.0	2.5	4.9	6.6	21.4	62.1
ノート/デスクトップPC (n=1915)	3.9	1.3	3.6	5.7	9.4	17.5	58.7
携帯/固定ゲーム機 (n=2441)	2.0	0.7	1.8	3.3	7.9	15.2	69.1
携帯音楽プレイヤー (n=1359)	3.3	0.8	2.2	7.3	11.1	23.4	51.9

※対象者数は、各機器の保有者

【スマートフォンの利用時間割合】

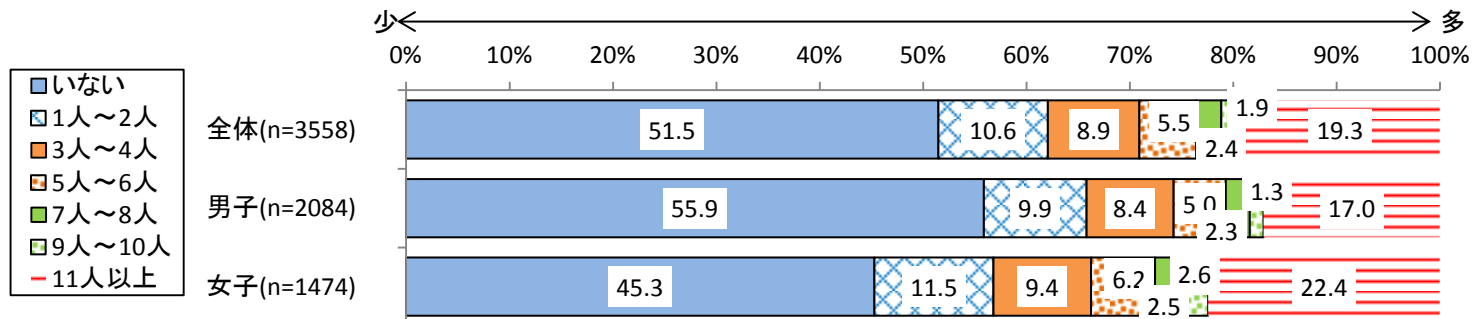


・ 1日当たりの平均利用時間はスマートフォン以外は1時間未満が最も多いが、スマートフォンは平日で1~2時間、休日で2~3時間の利用が最も多く、**他の機器に比べ長時間利用している。**

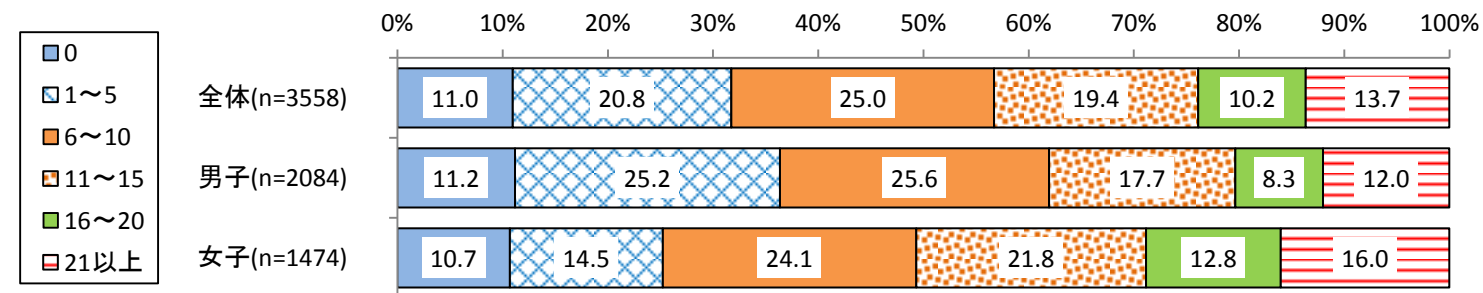
・ 平日と比較すると休日の方が長時間利用している。特にスマートフォンは休日では**2時間以上が73.5%、3時間以上が50.3%、6時間以上では平日の約2倍の15.7%**となっている。

6. 青少年のSNSでの交流状況等

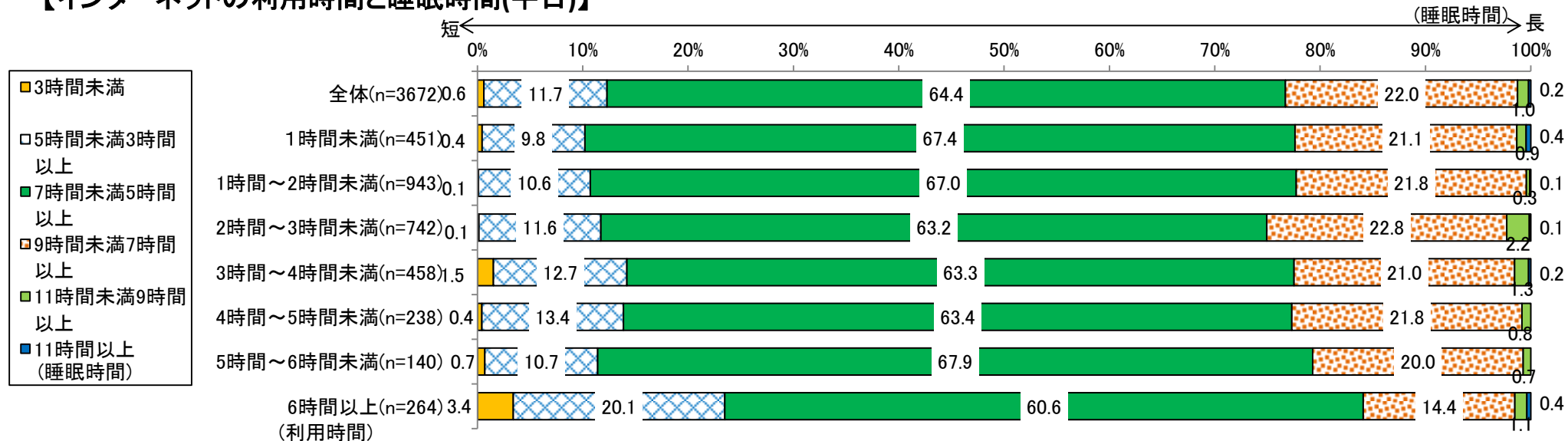
【一度も会ったことのないSNS上だけの友人数】



【現在所属しているチャットグループ数】



【インターネットの利用時間と睡眠時間(平日)】



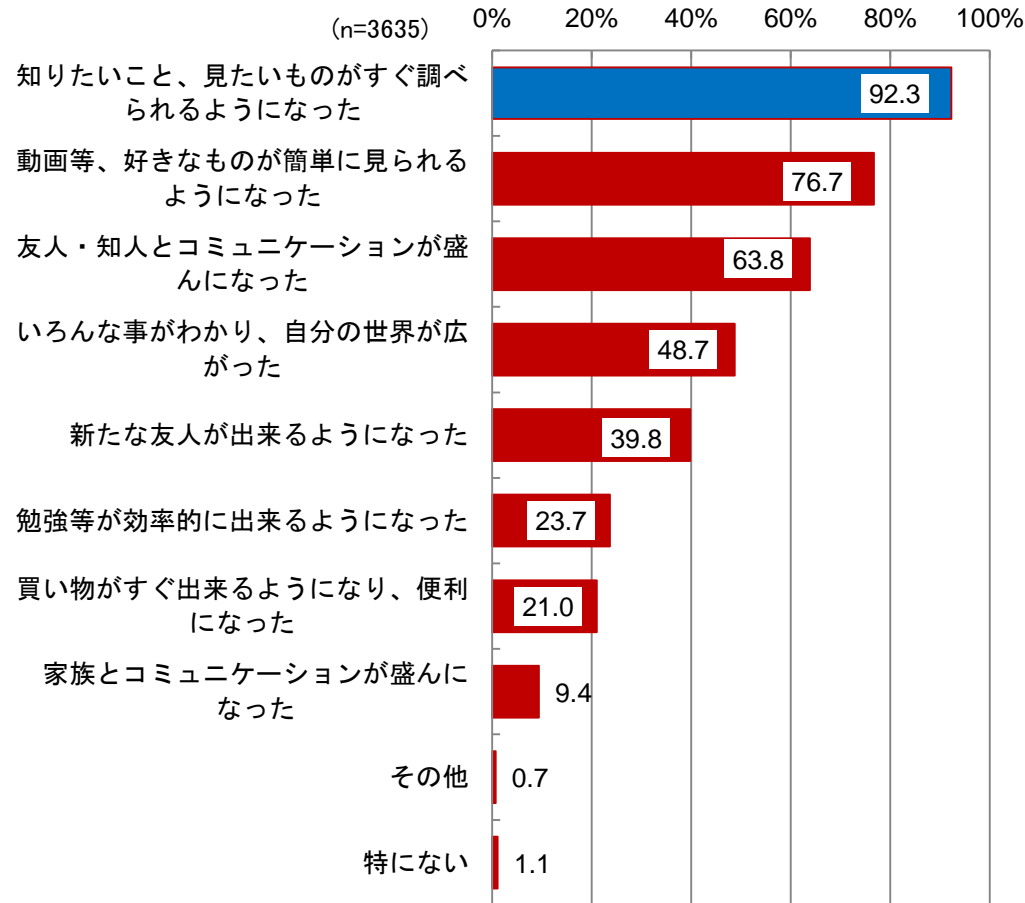
・一度も会ったことのないSNSの友人数は、**いないが最も多く約半分**。19.3%の青少年は**11人以上**いる。また、**女子の方が男子よりSNSの友人数が多い**。

・チャットグループ数は**6～10が最も多い**。これも**女子の方が男子より多い**。

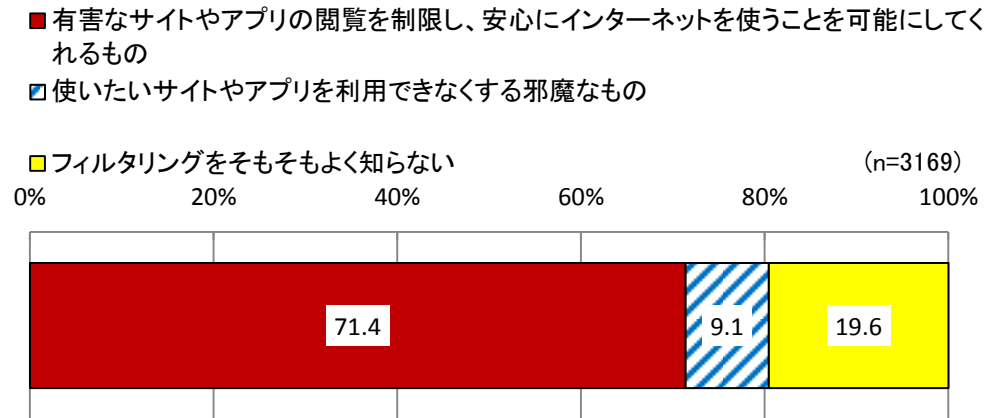
・インターネット利用時間と睡眠時間の相関関係を見ると、長時間利用になると、長時間利用になるとつれ睡眠時間が減る傾向がある。

7. インターネット利用のメリット等

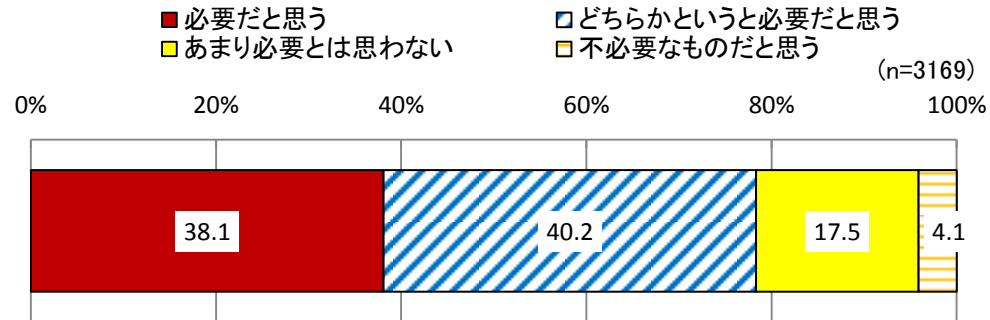
【インターネットを使い出して良くなったこと(複数回答)】



【フィルタリングに対するイメージ(スマートフォン利用者)】



【フィルタリングに対する必要性の意識(スマートフォン利用者)】



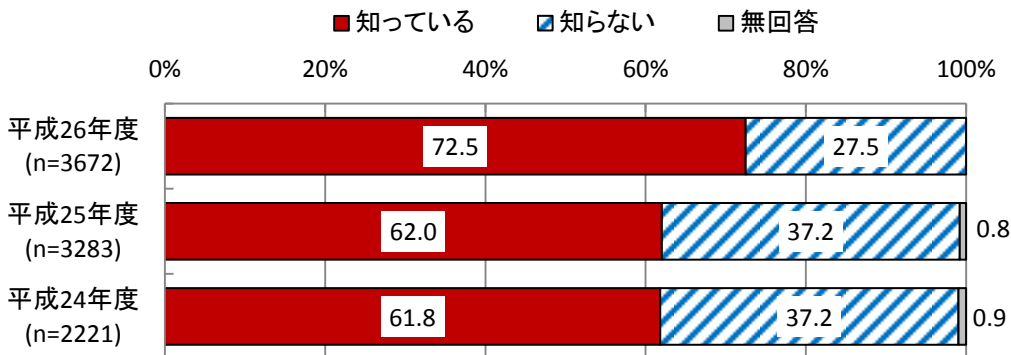
・約99%の青少年がインターネットのプラス面を感じている。特に知りたいこと、見たいものがすぐに調べられるようになったことは90%以上が良かった点ととらえている。

・単にフィルタリングを邪魔なものと思っているわけではなく、約71%の青少年はプラスイメージを持っている。

・約78%の青少年が自分にとってフィルタリングは必要（必要だと思う＋どちらかという必要だと思う）と考えている。

8. フィルタリングの認知・家庭のルールとフィルタリングの利用状況

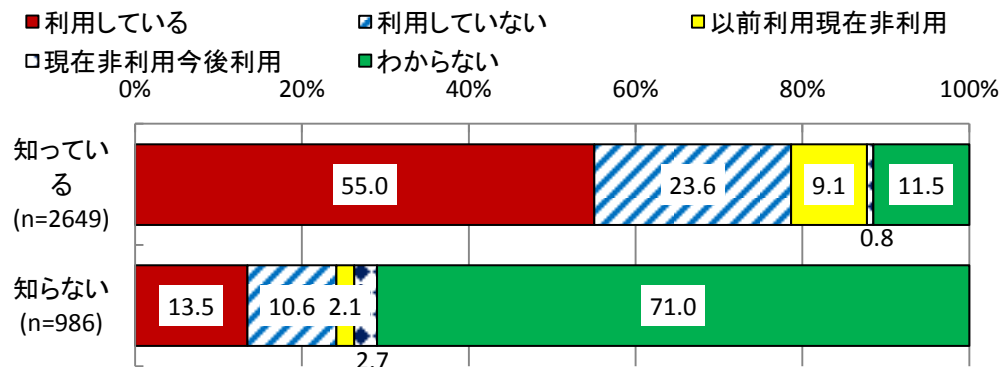
【フィルタリングまたは機能制御機能の認知】



※平成26年度はいずれかの項目に回答するように制御、平成25年度、24年度はいずれにも回答していない場合は無回答とした

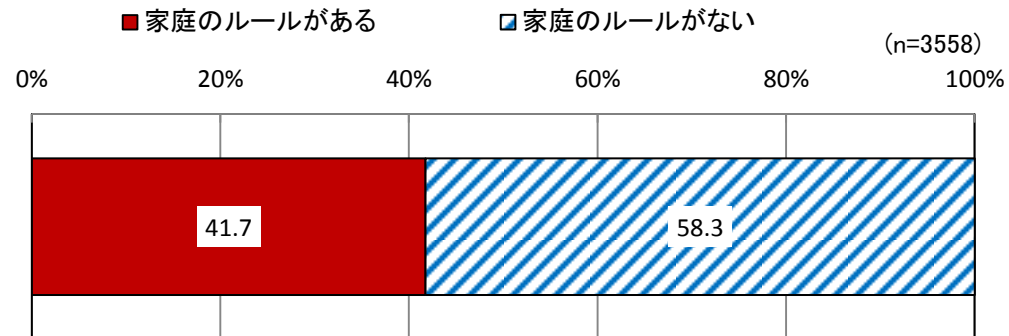
※知っている:「よく知っている」と「多少知っている」の合計。知らない:「あまり知らない」「全く知らない」の合計

【フィルタリングまたは機能制御機能の認知と利用状況】

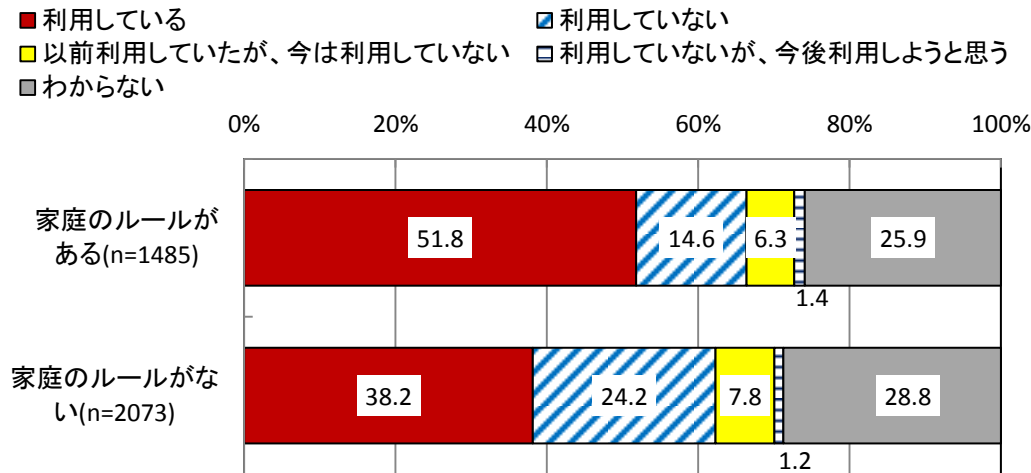


- ・年々、フィルタリング等の認知率は高くなってきている。
- ・フィルタリング等の機能を認知している青少年はフィルタリング等の利用率が55%だが、認知していない多くの青少年はそもそも利用しているかどうか分からない。

【スマートフォンやSNSを利用する際の家庭でのルール】



【家庭のルールとフィルタリング等の利用状況】

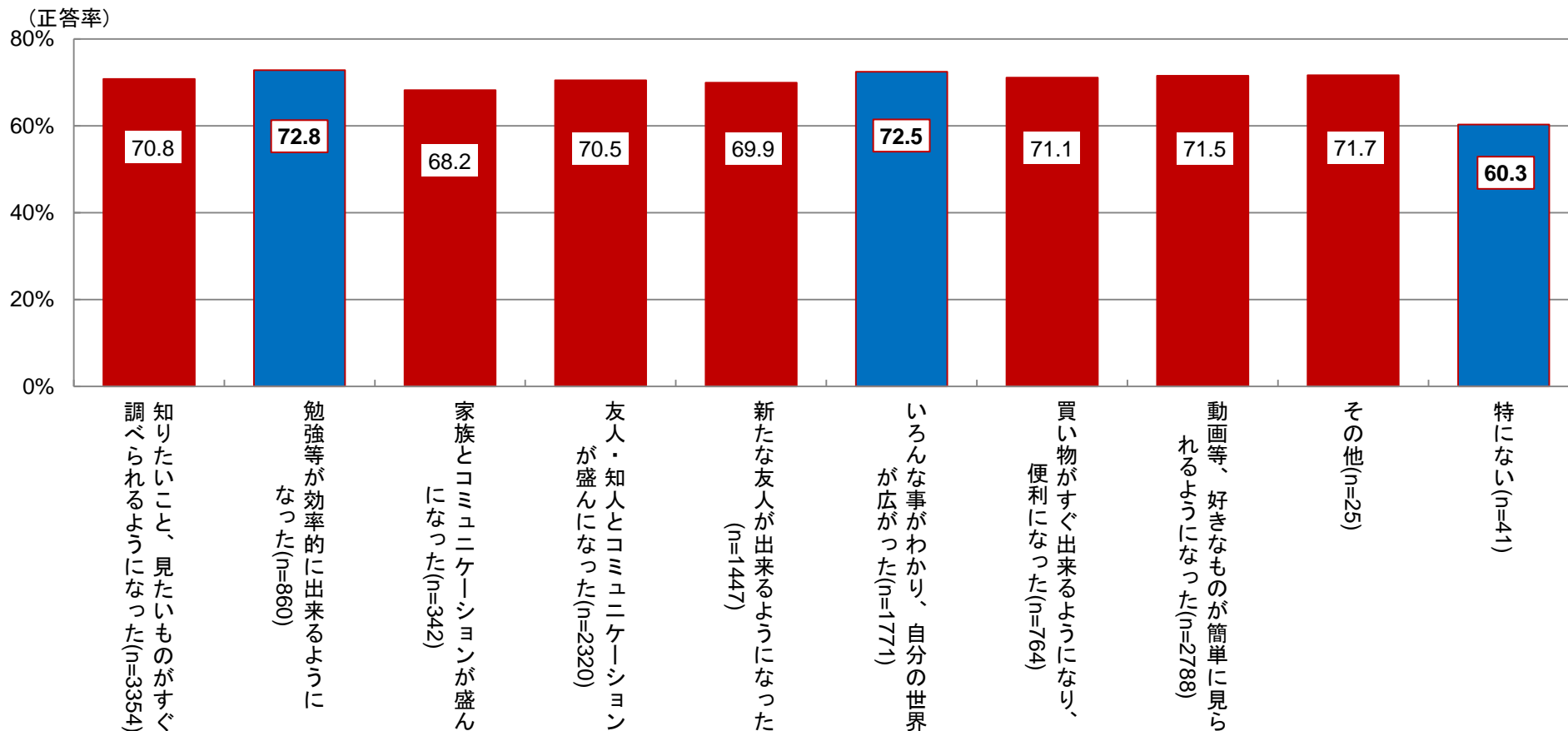


- ・58.3%の青少年はスマートフォンやSNSを利用する際の家庭でのルールがない。
- ・家庭のルールがある青少年のフィルタリング利用率が51.8%であるのに対し、ルールのない青少年の利用率は38.2%と低い。

9-1. ILAS指標とアンケート結果との現状分析1

1. 勉強等をする際、インターネットに利点を感じている青少年のリテラシーが高い。

・勉強が効率的に出来る、自分の世界が広がったと感じている青少年の正答率が相対的に高く、サンプル数は少ないが、特に利点を感じていない青少年の正答率は相対的に低い。

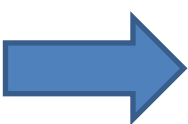
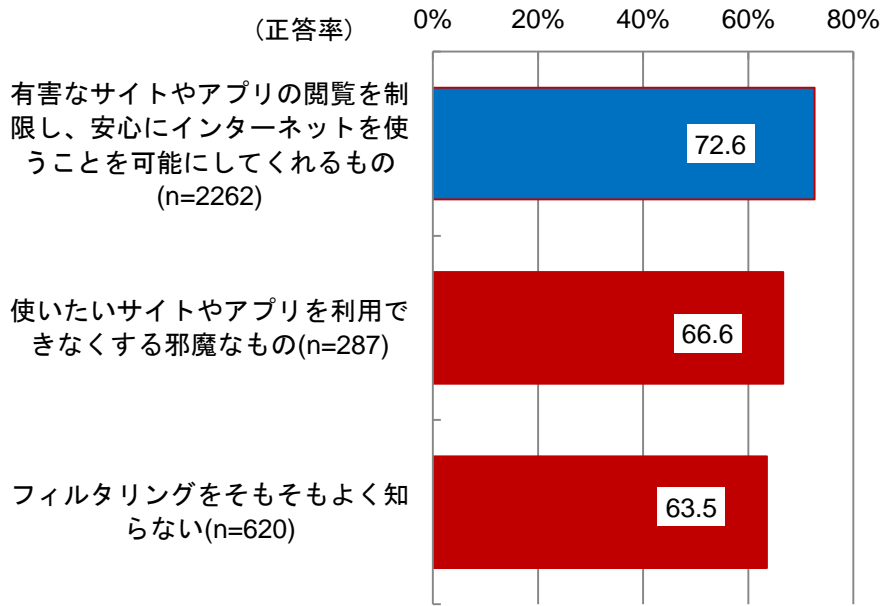


インターネットを利用する際のマナー等を啓発しつつも、より前向きに上手に利用することを促すことも重要。

9-2. ILAS指標とアンケート結果との現状分析2

2. フィルタリングの意義について理解している青少年のリテラシーが高い。

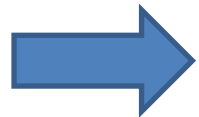
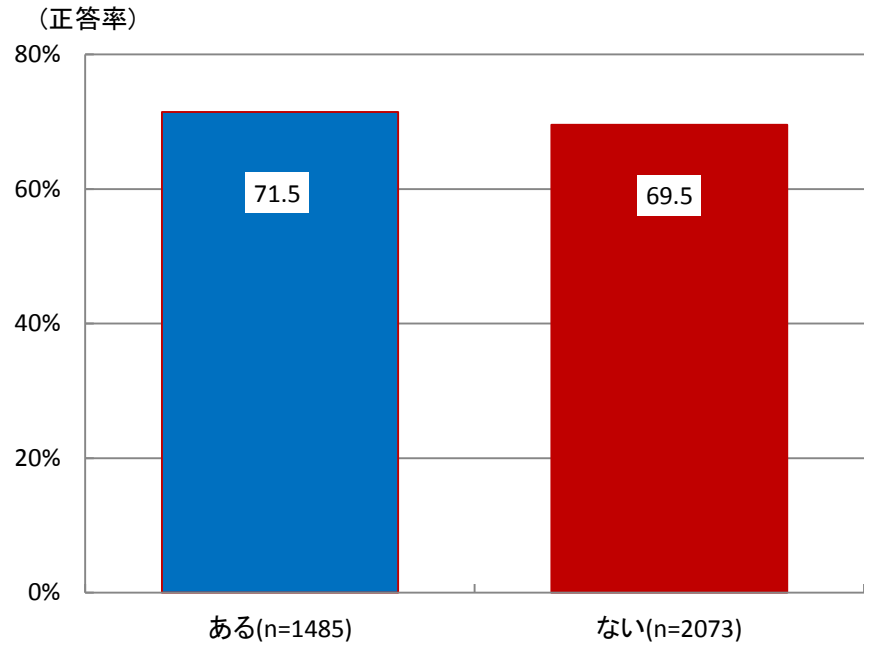
・フィルタリングの意義について理解がある青少年が、フィルタリングを邪魔なものとする青少年より正答率が高い。



フィルタリングの必要性、意義などを青少年自ら考える機会を設けることが重要。

3. 家庭でルールのある青少年のリテラシーが高い。

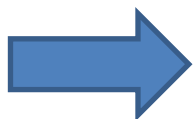
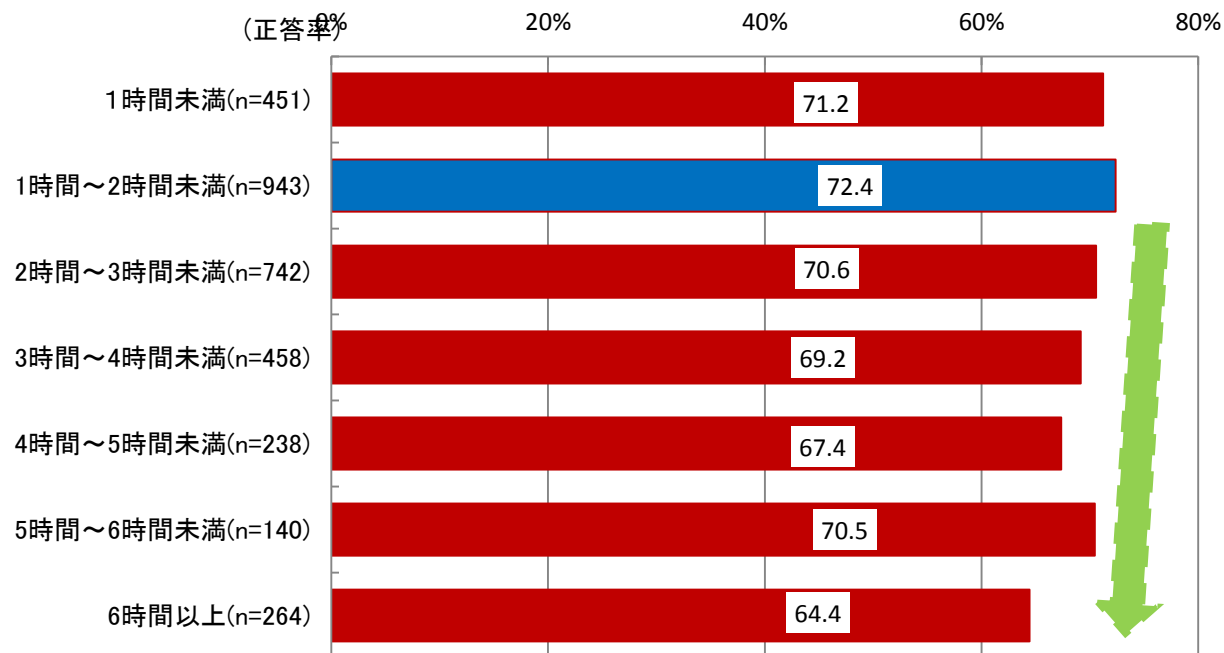
・スマートフォンやSNSを使う際、家庭でのルールがある青少年が家庭でのルールがない青少年より正答率が相対的に高い。フィルタリング利用率もルールのない青少年の方が相対的に低い(P8参照)。



正しいリスク認識、家庭でのルールづくり、フィルタリングの意義など、保護者の意識を高めることが重要。

4. 長時間利用するにつれて、青少年のリテラシーは低くなる。

・インターネットの利用時間(平日)については、1時間～2時間利用する青少年が相対的に正答率が高い。長時間利用するにつれ、概ね正答率が低くなっていく傾向がある。



長時間のインターネットの利用を控え、適度な時間でのインターネットの利用が重要。